



新規参入

園芸

新潟県長岡市

長島 恒介 さん (新潟県出身)

就農のきっかけ

就農前のこと

- 長島さんはご実家が農業を営んでいるとのことですが、ご自身の就農に至る経緯を教えてください。

実家が農家だったこともあり、子どもの頃から手伝いをしていましたね。例えば、休日の午前中は部活、午後は農業と
いうような環境で、米についても田植えから稲刈りまで経験しました。ただ、農業を継ぐ気はまったくなくて、以前は東
京の飲食店で働いていました。その後、実家の農業の継承について家族で話し合うため、地元に戻りました。

実家の農業は兄が継承することになったのですが、地元に戻ってこれから何を始めようか考えた時に、私も農業を選
択しました。

- 就農にあたって研修は受けられたのでしょうか。

市内の農業者の下で2年間研修を受けました。園芸を一通り経験しましたが、その中でねぎに可能性を感じ、主力と
してやっていこうと思いました。

就農前後の行動

研修修了後、独立・自営就農へ

- 就農に際して、農地の確保など大変だったことはありますか。

農地の確保はスムーズでした。JAの方などに相談したところ、ちょうど離農される方の農地が出てきたので、タイミングよく借りることができました。元々は桃を栽培していた場所で整地するのが大変そうでしたが、伐根まで済ませた状態だったので、こちらの手間もありませんでした。

ただ、農地が数か所に点在しているのが悩みですね。片道 20 分以上かかるルートもあるので、拠点としている農地の近くに集積したいというのが本音です。

- 就農前後で、農業に対するイメージのギャップはありましたか。

元々農業が身近だったのと、行政の方と就農計画を作って概ねその通りに進めていったので、特にありませんでした。ただ、新型コロナウイルス感染症の流行と肥料価格の高騰は想定外でしたね。



独立・自営就農後のこと

- 1年目のことを教えてください。

1年目は様々な品目に取り組みました。ねぎ、にんじん、キャベツ、とうもろこし、白菜をはじめ、トマト、キュウリ、じゃがいも、さつまいもなどです。3年目まではあらゆるものを作って、その中から取捨選択していきました。今年で4年目になりますが、今でも残っている品目(ねぎ、にんじん、キャベツ、とうもろこし等)は、値段が高いときに売り切れるものでリレーを組んでいるような感じです。

本当は1~2品目に絞りたいのですが、冬季に積雪があるため、それができず悩ましいところです。積雪を考慮すると稼働期間が7~8か月しかなく、そこで他の産地の1年分を売り上げないといけないので、必然的に労働時間が増えていきます。

- 条件が厳しい中で、何か工夫していることはありますか。

高単価の契約ではなく、自分たちが設定した最低価格を切らないような契約を組んでいくことで、利益を確保しています。

例えばトウモロコシ。市場価格が200円/本から80円/本に下がった場合、通常の契約をしている農業者のダメージは大きいですが、私たちの場合は100円/本で契約を組んでいるので、市場の単価が下がっても利益を出すことが可能なんです。単価の下限を上げていく経営手法ですね。

単価が高い訳ではないので、量を作っても全部出荷することができます。

- 今後の展望をお聞かせください。

青年等就農計画の5年間でいろんなことをやってみて、たくさん失敗をしようと考えています。今しか失敗できないですからね。

就農4年目の今年は、品目のリレーをうまく回して品種の選定を検討しようと思っていますし、5年目は堅実に、遊びなしでどの程度の利益が出るかを検証する予定です。私自身は、面白みを感じています。

今は大きく動くタイミングではないと考えていますが、肥料や資材費の動向も注視しつつ、動く時が来たら自前でハウスを建てて人を雇い、生産量や売上を伸ばしていきたいです。

就農希望者へのメッセージ

- 就農希望者へのメッセージやアドバイスをお願いします。

現実的な話をすると、就農する地域の情報をしっかり調べたうえで進めていくことが重要です。その地域でどんな物が作られているか、ブランドはあるか、品目を絞った場合でも単価を維持できるかなど、事前に調べられることは全部調べた方が良いでしょう。

高単価の品目がない場合、とにかくたくさん作って売るしか方法がありません。先ほどもお話ししましたが、稼働期間に限られた中で普通の働き方をしていたら経営が成り立ちません。そういった状況でも、自身で経営を工夫して楽しめる人は、農業に向いていると思います。

- なんとなく農業がしたい、という考えでは続かないということでしょうか。

そうですね。栽培して収穫するだけなら難しいことはありませんが、結局、限られた資源を用いてどのように利益化していくかに尽きるんです。自分の出来る範囲内で、どのようにリレーを組んでいくかを考えて、それを隙間なく作っている人でないと厳しいと思います。



令和5年7月 経営支援課就農促進班取材

(写真提供:長岡市農林水産政策課)